

サイドウェイズ

この記事は、米ボウリング雑誌『Bowling This Month』の許可を得て、翻訳・掲載しております。本記事の著作権は発行元の Joshua Sports & Entertainment, Inc.に帰属し、許可なく転載・複写・転送等することは禁止されております。

This translation of article is provided by DAIFUKU QubicaAMF under the permission of Joshua Sports & Entertainment, Inc.. Copying/Duplicating/Modifying of this article without the permission by Joshua Sports & Entertainment, Inc. is prohibited.

⇒ ボウリング ティスマンス 2009年8月号掲載

サイドウェイズはメガフリクションの後継ボールです。この新リリースで、AMF は今回逆のことに挑戦したようです。メガフリクションはオイル上での摩擦を重視したものでしたが、サイドウェイズは、ブレイクポイントでいかに摩擦を起こさせるかを追求したボールです。＜ミディアム＞我々の3人のテスター全員が、サイドウェイズがミディアムテストパターンに適していると感じました。ポリッシュ加工により、手前はクリーンに走るので、エネルギーの多くをブレイクポイントとバックエンドまで温存することができます。一見不可能と思われる角度からでも、驚異的な曲がり度でポケットへ戻ろうとします。＜ヘビー＞クランカーとトゥーナーは、オイリーコンディションを2番目に適しているレーンとして選びました。彼らが持つ中～高の回転力が、ややストレートな角度からでもサイドウェイズを転がすことができました。ストローカーも、ポケットをヒットすることはできたのですが、このパターンがフレッシュな間は良い投球ができたとは言えませんでした。＜ドライパターン＞ ストローカーは、クランカーやトゥーナーよりもドライコンディションで良いリアクションが得られました。高回転の場合、より弱めのレイアウトが必要になりますが、低回転なら、このボールをドライパターンで使うことができます。＜スポーツパターン＞ このボールのように、バックエンドで大きく動くボールは通常スポーツパターンには適していませんが、このボールは、可能性を見せてくれました。少し崩れたスポーツパターンではバックエンドで強めのリアクションが必要になりますので、このボールは適しているようです。

<パフォーマンスレーティング>

パフォーマンスレーティングです。3つの違うタイプのボウラーが、4つのレーンコンディション上でテストして評価した結果です。

1 - 3 ボールのパフォーマンスが平均以下 4 - 6 平均的なパフォーマンス 7 - 9.5 エクセレント!

| ボウラータイプ コンディション | ストローカー | トゥーナー | クランカー |
|--------------------|--------------|--------------|----------------|
| オイリー | 6 | 7 Excellent! | 7 Excellent! |
| ミディアム | 9 Excellent! | 9 Excellent! | 9.5 Excellent! |
| ドライ | 7 Excellent! | 6 | 5.5 |
| スポーツ | 7 Excellent! | 6.5 | 6 |

ボールデータ

| | |
|-----------|-----------------------------|
| カバーストック | F75 リアクティブボール |
| コア | サイドウェイズ[対称] |
| カラー | ダークブルー / シルバーパール |
| 表面仕上げ | 600 番サンディング後 2000 番ポリッシュ |
| 慣性 (RG) | 2.56 |
| フレアポテンシャル | RG 0.055 |
| コンディション | ヘビー |
| 重さ | 12 - 16 ポンド |



☑ **強 さ** ... サイドウェイズの良いところは、ブレイクポイントとバックエンドでの強力な動きです。何度投げても同じように強い動きを再現します。

☑ **注意点** ... サイドウェイズは、たっぶりのオイル上では摩擦が十分に得られませんが、いくつかのオイリーパターンでも使用可能です。より摩擦が必要な場合は、表面をよりラフに仕上げると良いでしょう。高めの回転数では、ドライコンディションで苦労しますが、弱めのレイアウトと滑らかな表面加工を施すことで緩和できます。

☑ **総 評** ... サイドウェイズは、メガフリクションとクラッチに比べ、フックポテンシャルは低めです。程よいスキッドと強力なバックエンドリアクションが、ミディアムテストパターンに適していると評価しました。ミディアムドライ～ミディアムヘビーに対応可能でしょう。

< ボウラータイプ >

| | ストローカー | トゥーナ | クランカー |
|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|
| Axis angle | 75 ° | 55 ° | 70 ° |
| Axis point | 4.875over/1.25up | 5.25over/0up | 5.25over/.25down |
| RMP (回転数) | 225 | 320 | 450 |
| MPH (10 フィート投球速度) | 16.4mph 26.3Km/h | 17.8mph 28.6 Km/h | 19.0mph 30.5 Km/h |

< 今回のテストレーンコンディション > BW Pro Anvil Lane/ Kegel pattern

| | オイル長 | 中心のオイルの厚み |
|---------------|---------|------------|
| <i>OILY</i> | 44 フィート | ハイストリート |
| <i>MEDIUM</i> | 41 フィート | メインストリート |
| <i>DRY</i> | 38 フィート | イーリーストリート |
| <i>SPORTS</i> | 39 フィート | ワインディングロード |